

学術事業報告

学発番号：学13-019

研修会名：北部学術研究班・免疫検査研修会

日 時： 2013年6月27日(木)

場 所： 綾部市立病院東館2階講堂

主 題1： B型慢性肝炎治療ガイドラインにおける肝炎マーカーの有用性

講 師1： 江川孝則氏(富士レビオ株式会社学術サービス部)

主 題2：

講 師2：

参加数： 9人(会員9人、非会員0人)

報告者： 荒賀智永(綾部市立病院)

以下、講演内容など

B型慢性肝炎治療ガイドラインにおける肝炎マーカーの有用性について講義していただきました。内容はB型肝炎について感染状況、感染経路からB型肝炎一過性感染、HBs抗原持続感染者(キャリア)の特徴や発病についてそれぞれ説明していただきました。血中HBVマーカーとその意義ということで、HBVのジェノタイプ、HBV-DNA、HBc抗体、HBs抗原、HBs抗体などの項目の説明があり、HBc抗体で慢性肝炎と急性肝炎の鑑別が有用であること、HBVの感染予防ではHBVワクチンの接種の現状、追加接種基準、慢性B型肝炎治療ガイドラインでは、治療薬の特徴、免疫抑制・化学療法時での肝炎対策、治療指針などを説明されました。まだ試薬発売はされていませんが、今後慢性B型肝炎治療マーカーとして期待されるとして高感度HBs抗原、核酸アナログ製剤中止に有用なマーカーとしてHBcrAg(HBコア関連抗原)の説明もありました。今回の研修会では検査以外にB型肝炎の基礎、感染機序、治療においても理解することができた研修会でした。